

るこごとなつた旨言明した

(五九一三)

五九二七

米デトロイト市に於る白人對黒人の衝突　ミシガン州

(108)

デトロイト市に二十日夜半以來白人對黒人の衝突が勃發し、陸軍長官スチムソンは大統領の命に依り二十一日同市に戒嚴状態を布告しガンサー准將を戒嚴司令官とする軍隊を同市に進駐せしめたが暴動は二十二日午前鎮壓された、本事件に因る死者二十五名(内黒人二十名)、負傷者七百名以上、抑留取調中の者千三百に達してゐる　(四七九三)

五九二八

米國務省極東部長　米國務省はジョゼフ・ダブルユイ、

バラントインを同省極東部長に任命した旨發表した(五五八六)

六月二十三日　水曜日

五九二九

敵機マカツサルに來襲　敵大型爆撃機十機編隊が白雲

セレベス島マカツサルに來襲したが我方は其の一機を撃墜した　(五八〇四)

五九三〇

スイス英政府に抗議　スイス政府は英空軍が去る二十

日夜スイス上空に飛來、焼夷弾を投下して死傷者を生ぜしめた

件に關し英國政府に抗議した旨發表した (五三九八)

五九三一 英の重慶援助新空路 英政府當局は最近ヒマラヤ經由の對重慶新空路が開通し既に右輸送路經由で第一回援助物資が重慶向輸送された旨發表した (五五四八)

五九三二 亞英字紙の發行を停止 アルゼンチン政府當局は英字新聞スタンダード Standard が獨宣傳相ゲツベルス博士を排撃したるに由り同紙に二十四時間の發行停止を命じた(五八九一)

五九三三 駐ヴァチカン獨大使着任 ヴァチカン駐劄獨大使エルンスト・フオン・ワイゼツカー博士はヴァチカンに到着した (五二七一)

五九三四 土南阿聯邦と外交使臣交換 トルコ政府は南阿聯邦(五三一七)と外交使臣を交換することとなつた旨發表した (五六九四)

五九三五 ロシア共和國人民委員會議議長更迭 ロシア共和國人民委員會議副議長ボネギンが同會議議長コトクロフの後任議長に任命された旨發表せられた (五九三三)

五九三六

交戦國民一人當納稅額

二十三日附ロンドン・ニニ

(1068)

ズ。クロニクル紙に掲載された交戦國民一人當納稅額は下記の通りである(單位磅)

直接稅

間接稅

英

國

三四

一八

米

國

三四

七

カ

タ

二八

一

濠

洲

一七

一

南

邦

一七

二

獨

逸

二三

八

イ

タ

三

七

五九三七

東京都設置準備事務を囑託せられた

陸軍司政長官大達茂雄氏が

(五八〇三)

六月二十四日 木曜日

五九三八 伊ファシスト黨現勢 伊ファシスト黨書記長スコルツ

アは同黨幹部會に於てムツソリニ首相に同黨の現勢を次の如く報告した

一、六月十日現在黨員數 四七七〇七七〇

内譯 男子黨員 三三八九〇六七 女子黨員 一三〇七〇三六

黨員大學生 一六四、六六七

一、黨員戰死者數 四一、三五二

内譯 黨指導者 一、四二七 黨員 三九、九二五

一、應召中黨員數 一、六〇六、一四〇

内譯 黨員 一、五四四、〇一五 黨員大學生 五八、二二五 (五九、〇八)

五九三九 米陸軍の損害 米陸軍長官スチムソンは記者會見に於て米陸軍の損害は六万三千九百五十八名に達する旨次の如く發表した

戰死及戰傷死 七五二八 負傷 一七、二二八

行方不明 二二、六八七 俘虜 一、六二五

計 六三、九五八

戦域別損害は次の通りである

比 島 三一六一〇 (行方不明一七、九三九俘虜一〇、六五二を含む)

北アフリカ 一八七三八 西南太平洋 四八四二

南太平洋 二〇二三

(五七九一)

五九四〇 土軍事使節團ベルリン着 トイテミール將軍を首班と

するトルコ軍事使節團がヒットラー總統の招請に應じ獨軍事狀

態視察のためベルリンに到着した (五一三〇)

五九四一 智樞軸國民抑留法延長 チリ議會は樞軸國民抑留法

六箇月延長案を可決した (五五八三)

五九四二 コロンビアに於る公債強制割當 コロンビア政府が最

近インフレーション對策として國民に對し公債の強制割當制の

實施を發表した結果株式市場は大混亂に陥り、政府は一切の先

物取引を停止する旨發表した (五三九五)

五九四三 濠洲政府不信任案否決 濠洲議會は在野黨提出の政府

不信任案を二十七票對二十六票を以て否決した (五七七九)

五九四四 濠洲議會解散 濠洲首相カーチンは總督に對し議會の解

散を要求した

濠洲總督府發表に依れば總督アレクサンダー・アークライト Alexander G. Arkwright は議會に解散を命じた、總選舉は八

月二十一日に施行せられる

(五九四三)

五九四五 蒙疆銀行滿洲中央銀行に借款供與 蒙疆、滿洲國間の物資交易の圓滑なる遂行に資するため蒙疆銀行より滿洲中央銀行に對し六百萬圓を限度とする信用を供與することとなり、張家口の蒙疆銀行總行に於て宗像同行總裁と西山滿洲中央銀行總裁との間に右に關する契約が調印せられた (五九一五)

六月二十五日 金曜日

五九四六 英帝ロンドン歸着 英帝ジョージ六世は空路ロンドンに歸着した (五九二一)

五九四七 米市民航空偵察隊 米戰時情報局は民間飛行家に依り組織されてゐる市民航空偵察隊の活動狀況に就て、市民航空偵察隊員は今や七万五千名に達し、隊員が飛行した距離は既に二千万哩を超え、撃沈された商船乗組員の救助にも多大の貢獻を

爲して居り、同隊現在迄の損害は死者三十名、喪失機數七十三  
である旨發表した (五八五〇)

五九四八 米大統領罷業彈壓法案拒否  
口大統領は議會に教書を  
送り、彼は罷業彈壓法は所期の目的達成に却て有害な作用を及  
ぼすと思惟される故に同法案を拒否、同法案の代案として最高  
徴兵年齢の四十五歳より六十五歳迄の引上を提案する旨及右徴  
兵年齢引上に依り彼は政府接收下の軍需工場に於て生産を妨害  
せんとする者は悉く軍隊に徴集する方針なる旨を述べた  
(五八三二)

五九四九 罷業彈壓法案成立  
米上院は口大統領に拒否された罷  
業彈壓法 (The War Labor Dispute Act) 案を接受後五分、五十  
六票對二十五票を以て重ねて可決下院に回付した、下院も即日  
同法案を重ねて可決、同法案は成立した (五九四八)

五九五〇 米炭坑罷業  
米鑛山労働組合會長ルイスの復業指令に  
應じて職場に復歸した炭坑夫は二十五日現在で罷業坑夫五十万  
の約六割に過ぎず、同日更にペンシルヴェニア州の二炭田地帯  
に於て約一万一千の炭坑夫が罷業を再開した (五九二六)

五九五一 伯ボリグイアにサントス港提供  
ブラジル大統領ヴァル

ガスは大西洋岸のサントス港をボリグイアの自由使用に提供する  
旨言明した (五四五一)

五九五二 濠洲戦費  
濠洲蔵相チーフリーは下院に於て、一九四二

一三年度の戦費は現在五億六千万濠洲磅に達して居り、歳入は恐  
らく二億濠洲磅を超過するであらう旨言明した (五一七五)

五九五三 駐佛芬公使着任  
駐佛フィンランド公使アイロ・アンテ  
イ・パツカスラハテイはベタン國家主席に信任狀を捧呈した  
(五二八九)

五九五四 獨宛電信料金引下  
遞信省は獨(ルクセンブルグを含む)

宛電信料金が改正され七月一日から實施せられる旨發表した、右  
に依り通信電報と隱語電報との料金上の區別は廢止せられ一率に  
一語に付一圓四十錢、最低料金は何れも五語分となつた

五九五五 第二回行政查察使  
内閣顧問藤原銀次郎氏が行政查察使  
を仰付られた、第二回行政查察は北海道及東北の製鐵所竝に之に  
關聯する石炭山を中心に七月中に實施せられる (五八三五)



五九五六 大東亞戦争公債發行 大東亞戦争公債の償還が何全額  
及日本銀行引受に依り發行せられた (三八六三)

五九五七 五重點産業統制會に職權委譲 厚生省では鐵鋼、石炭、  
鑛山、造船及輕金屬の五重點産業關係統制會に勤勞行政部面  
於る職權を委譲することとなり右に關する勅令案要綱が閣議に  
於て決定せられた (四三九七)

五九五八 學徒戰時勤員体制確立要綱 政府は教育鍊成内容の一  
環として學徒の戰時勤員体制を確立し學徒として有事即應の態  
勢にあらしめると共に勤勞勤員を強化することとなり學徒戰時  
勤員体制確立要綱が閣議に於て決定せられた (五七四一)

六月二十六日 土曜日

五九五九 ソロモン群島方面に於る帝國陸海軍地上部隊の戦果 ソロ

モン群島方面帝國陸海軍地上部隊は六月二十日、二十一日、二十三日、二十五日來襲せる敵延機數二百九機と交戦、其の二十

七機を撃墜した旨大本營から發表せられた (五八〇四)

五九六〇 米潜水艦行方不明 米海軍省は潜水艦R二〇號五三〇

噸が本部沿岸沖で演習中行方不明になつた旨發表した(五八五四)

五九六一 米商品金融會社存續期限並に借入權限延長法案 米商

品金融會社存續期限並に借入權限延長法案は疊に下院を通過し

上院に同付されてゐたが民主黨上院議員ベンネット・クラーク

は同法案に對し助成金交付を禁止する趣旨の修正案を提出、上

院は同修正案を三十九票對三十七票で可決した(五九四九)

五九六二 食糧統制官權限擴張案 米上院は食糧統制長官 U.S.

Food Administrator エスター・デーヴィス Chester Davies に對し

食糧の配給並に食糧物價統制に關する全權を賦與する趣旨の農

業委員會提出の法案を可決した (五〇四二)

五九六三 バラグアイ大統領メキシコ着 バラグアイ大統領イビ

ニオ。モリニゴはメキシコ市に到着した (五八〇〇)  
英空相アーチボルド・シンクレ

五九六四 アーはトル夕島に到着した (五八六八)  
スペイン政府はトル

五九六五 トルコ外五箇國駐劄西公使更迭  
コ外五箇國駐劄公使の更迭を左記の如く發表した

駐トルコ公使ホセ・デ・ロヤス・イ・モレノ前駐ルーマニア公使

駐ルーマニア公使マヌエル・ゴメス・イ・オルシア

駐バラグアイ公使ルイス・オリヴァレス・イ・ブルゲラ

駐ウルグアイ公使テオドミロ・デ・アギラル前駐バラグアイ公使

駐ヴェネズエラ公使ミゲル・エスペリウス・ペドロ

五九六六 駐ヴァチカン芬公使信任狀捧呈  
ヴアチカン駐劄フイ

十二世に信任狀を捧呈した  
はローマ法王ピオ (五九五三)

五九六七 比島訪日視察團長福岡發  
比島訪日視察團長レオン・

ジ・ギント及同福團長ピオ・チユランは朝空路福岡發歸國の  
途に就いた (五八六四)

六月二十七日 日曜日

五九六八 獨オランダ占領地長官死去 獨ナチス黨オランダ支部

長兼オランダ占領地長官フリッツ・シュミツト Philip Sch-

mitz は公務旅行中奇禍に遭ひ死去した旨獨政府當局から發表

された、ヒットラー總統は同氏の黨葬を命令した(二七〇六)

五九六九 米北阿への租貸高 米武器租貸局次長ステツチニアス

は、米政府が租貸法に基き昨年十一月以降本年五月末迄に北阿に

租貸した民需竝に軍需物資は十七萬噸四千萬弗に達する旨言明

した (五九〇一)

五九七〇 駐イラン蘇聯大使歸國 駐イラン(三八六二)蘇聯大

使スミルノフ Shmironov は空路テヘラン出發歸國の途に就いた

(五九三五)

五九七一 亡命ユーゴースラヴィア内閣成立 亡命ユーゴースラ

ヴィア前文相ミロス・トリフィノヴィツチが内閣を組織した

(三八八二)

六月二十八日 月曜日

五九七二 米脱走兵數發表 ニューヨーク聯邦檢察局は開戦以來  
今日迄に十七万一千六百四十二名の兵士が米陸軍から脱走した  
旨發表した

五九七三 米海軍豫算案成立 大統領は總額三百三十億弗に上  
る一九四三―四年度の海軍豫算案に署名した(五八七六)

五九七四 米食糧統制局長官更送 米聯邦巡回裁判所判事マ  
イン・ジョーンズ Marvin Jones が食糧統制長官チエスター・デ  
ーヴィスの後任に任命せられた (五九六二)

五九七五 米、カナダ及イラク駐劄公使任命 米政府當局はレ  
アサートンが駐カナダ公使に、前在モスクワ米大使館勤務ロイ  
ヘンダーソンが駐イラク(四三八一)公使に任命された旨發表  
した (五七五二)

五九七六 米自動車労働組合員罷業開始 ミシガン州ハイランド  
パーク Highland Park のクライスラー自動車工場 Chrysler Motor  
factory に於て産業別組織會議系の米合同自動車労働組合所

屬労働車約二千二百餘名が罷業を開始した、右罷業は罷業彈壓法成立以來最初に發生した罷業たる點に於て注目される

炭坑罷業は二十八日に至り多數の炭坑夫が復業したが尙罷業繼續中の炭坑夫は十五、六万に上ると推定される(五九五〇)

五九七七 米炭坑罷業に因る損害 米燃料調整長官イツキーズは

下院歳入委員會に於て東部炭田に於る出炭狀況に就て、最近の炭坑罷業に因り米の出炭高は四月一日以降豫定計畫に比し二千三百万噸の減少となつた旨及目下政府は罷業炭坑の經營に當つてゐるが可及的速かに炭坑主に返還する予定で炭坑の國有化を考慮してゐない旨を述べた(五九七六)

五九七八 米罷業彈壓法撤廢法案 ミシガン州選出主黨議員ジョ

ン・レシンスキーは罷業彈壓法撤廢法案を下院に提出した(五九四九)

五九七九 佛領西阿總督辭職 佛領西阿總督ピエール・ボアツソ

ンは辭職した(四二七三)

五九八〇 英牛乳の割當削減 英食糧省は、七月四日から牛乳の配給割當を二五%削減、一人當一週三パイントとする旨發表した(五二三〇)

五九八一 駐ソ濠洲公使辭任 濠洲首相カーチンは駐ソ濠洲公使

スレーターが健康上の理由で辭職した旨發表した(五八八〇)

五九八二 濠英間航空路 濠洲政廳發表によれば、カナダ、アフ

リカを経由する濠洲・英國間の新航空路が開設せられた (五九八一)

五九八三 ソ聯特命全權大使任命 ソ聯最高會議は、外交官官制

改正に依り外務人民委員モロトフ、外務人民委員次長ヴィン

スキー、同デカノソフ、同ロソフスキー、同コルネイチユーク

の五人が特命全權大使の資格を與へられた旨發表した (五九七〇)

五九八四 ビルマ訪日觀察團離京 ビルマ訪日觀察團一行二十五

名は午後東京歸露歸國の途に就いた (五八五三)

五九八五 地方行政刷新強化方策要綱 都廳府縣間行政の綜合連  
絡調整を圖り更に特別地方行政官廳の所管行政にも亘り各種施  
策の綜合的運営を具現せんが爲め地方行政刷新強化方策要綱が  
閣議に於て決定せられた、右に依り北海、東北、關東、東海、  
北陸、近畿、中國、四國、九州の九地方に地方行政協働會が設

置せらる

地方行政刷新強化に關する新方策の七月一日より實施に轉じ、地

方行政協議會設置令案、戰時行政職權特例中改正案、地方參事官

臨時設置制案の三勅令案が閣議に於て決定された(五九三七)

臨時設置制案の三勅令案が閣議に於て決定された(五九三七)

局から發表せられた(五二六六)

(五二六六)



六月二十四日 木曜日

補遺

五九八七

ムツソリ―ニ首相演説

ムツソリ―ニ伊首相はヴェネチア宮に於て開

催されたフアシスト黨幹部會(五九三八)席上に於て演説を行ひ今回の戦争に

於て伊國民は樞軸並に三國同盟の戦友と相携へて勝利を收めるか屈辱的平和を

甘受して第四等乃至第五等國に轉落するかの孰れかを選ばねばならぬ旨を述べ

た

(五二一四)

× × × × × ×

六月二十九日 火曜日

五九八八

米陸軍豫算案上院可決

米上院は總額七百十五億弗に

上る一九四三―四年度陸軍豫算案を可決、白聖館に回付した

(五九一二)

五九八九

米自動車工場罷業中止

米ハイランド・パークのケラ

イスラ―自動車工場罷業従業員は復業した (五九七六)

五九九〇

宋美齡ナタール着

宋美齡は重慶への歸途ナタールに

到着した

(五八七〇)

(1081)

五九六一 伯ポリヴィア經濟協定調印 ブラジル、ポリヴィア兩

國間に左記内容の經濟協定が調印せられた

一、ブラジルのサントス港をポリヴィアの自由使用に供する

二、ポリヴィアのサンタ・クルス・デ・ラ・シエラ Santa Cruz de la Sierra とブラジルのコルンバ Corumba 間を結ぶ鐵道の建設

三、兩國間の輸出入貿易並に旅客運輸の促進 (五九五一)

五九六二 ロシア共和國最高會議々員選舉延期 ソ聯邦ロシア共

和國最高會議幹部會は、戰時下の緊急事態に鑑み同共和國最高會議議員の選舉を更に一箇年間延期する旨布告した

(五九八三)

五九六三 敵産四百餘件國民政府へ移管 政府は漢口、厦門、廣

東の各地區に於る敵産四百六十一件を國民政府に移管することとなり、午前谷駐華大使より國民政府外交部に文書を以て右の

(五四〇九)

五九六四 金屬類回收令改正に關する勅令案要綱 金屬類回收令

改正に關する勅令案要綱が第二十六回國家總動員審議會に於て

決定せられた、右に依り鉛が新に回収品目に加へられた

(五二六五)

六月三十日 水曜日

五九九五 米軍レンドバ島に上陸作戦 大本營發表に依れば帝國

海軍航空部隊は朝ソロモン群島レンドバ Rendova 島方面に出現  
せる輸送船、巡洋艦、驅逐艦等より成る敵有力部隊を攻撃し左

記戦果を収めたが敵の一部は同島に上陸した

撃沈破 輸送船六隻 巡洋艦三隻 驅逐艦一隻

撃墜敵機 三十一機以上 (五三五四)

五九九六 帝國海軍航空部隊ブロックス・クリーク空襲 大本營發

表に依れば帝國海軍航空部隊はポートダーウィン南東七十哩の  
ブロックス・クリーク Brooks Creek を襲撃、敵機十六を撃墜、同

大型十五を地上撃破した、我方損害なし (五九一八)

五九九七 獨潜水艦の黒海に於る戦果 獨總統大本營は獨潜水艦

が黒海水域に於てソ聯艦船二隻二千噸を撃沈した旨發表した

(五七三二)

五九九八 マルチニツク島總督米に代表派遣要求 佛領西印度諸

島マルチニツク島總督ジョルジュ・ロベール Georges Robert 提督  
は竟に米國側に屈服し同國海軍省に對し代表者派遣を要請した

(五三九〇)

五九九九 東條首相泰國訪問

東條首相は泰國を訪問すること共に

南方諸地域を視察、寺内南方方面總司令官其の他の皇軍將兵及  
官民の勞苦を犒ふ爲佐藤軍務局長以下の隨員を隨へ東京を出發  
した

(五四九九)

六〇〇〇 上海共同租界還付

上海共同租界行政權回收實施に關

する取極及了解事項が谷駐華大使と褚國民政府外交部長との間  
に國民政府外交部に於て調印せられた

(五七七二)

六〇〇一 南方地域留學生入京

南方地域からの初の日本留學生

の一行五十三名(ジャワ組二十三名、ビルマ組十五名、マライ、  
スマトラ組十五名)は東京驛着入京した

(五九八四)

六〇〇二 東京市の敵國在留同胞救恤資金

谷川東京市戰時生活

局長は午前外務省を訪問、東京市民の醸金に依る敵國在留同胞  
救恤資金三十六万九千二百六十二圓九十四錢を外務省を通し右  
同胞對策委員會に贈呈した

(五三六三)

六〇〇三 統制會に行政權移讓に關する勅令公布 勅令行政官廳  
職權委讓令中改正の件及同統制會に對する勅令行政職權委讓等  
に關する件が公布せられ夫々七月一日及七月二十日から實施せ  
られる (五九五七)

六〇〇四 内閣各省委員協議會創設 政府は内閣及各省委員中よ  
り内閣及各省毎に協議員一名を選定し此等協議員に依る内閣及  
各省委員協議會を設置し隨時首相官邸に協議會を開催、各省專  
務の統合調整を爲し委員制全般の運用方針を適時決定すること  
となり協議員の氏名が發表せられた (五九八五)

六〇〇五 日本證券取引所成立 日本證券取引所法が實施せられ、  
日本經濟聯盟會長井坂孝氏が日本證券取引所總裁に、東京株式  
取引所理事長副島千八氏及日本製鐵株式會社副社長原邦道氏が  
夫々同副總裁に任命せられた、七月一日より業務を開始する  
(五六四九)

七月一日 木曜日

六〇〇六

帝國海軍のレンドバ島方面に於る戦果

大本營發表に

(108)

依れば帝國海軍航空隊は前日に引續きレンドバ島方面の敵を攻撃した、六月三十日及七月一日の綜合戦果は次の通りである、  
我方の損害は未歸還機三十一

撃沈 乙級巡洋艦一隻 大型驅逐艦四隻 驅逐艦一隻

輸送船 三隻 輸送船三隻

撃破 乙級巡洋艦一隻 驅逐艦 一隻

撃墜飛行機 七十七機以上

(五九九五)

六〇〇七

米陸軍長官レンドバ島作戦に就て言明其の他 米陸軍

長官スチムソンは記者會見に於て、北阿戦線から移動せしめられた反樞軸軍部隊は最近西南太平洋の第一線に到着した、西南太平洋に於る現在の作戦は數週間前に前線各部隊の指揮官が華府に會合(五〇七四)した際に決定されたものである、レンドバ島に對する陸海兩軍の共同作戦はマツカーサーの指揮下に遂行されてある旨言明した

西南太平洋反樞軸軍司令部はレンドバ島上陸作戦は同軍司令部

竝に南太平洋反樞軸軍司令部（三七〇七）に屬する陸海空軍部  
隊の協力の下に行はれ米第六軍司令官中將ウォールター・クリ  
ューゼン Walter Kreutzzen（四六七八）が同作戰の一部を擔當  
してゐる旨發表した（六〇〇六）

六〇〇八 獨海空軍六月中の戰果 獨總統大本營は六月中に擊沈  
された反樞軸商船は三十一隻十四萬九千噸である旨發表した、  
右の内十萬七千噸は獨潜水艦に因り擊沈せられた（五九九七）

六〇〇九 反樞軸國新聞社特派員の死傷數 英情報省は開戰以來  
反樞軸國新聞社特派員の損害を次の通り發表した  
死者二三 行方不明七 負傷六〇 俘虜三六

六〇一〇 アフリカ佛軍總司令官任命 佛領北アフリカ、フラン  
ス解放委員會はジョルジュ・カトルーがアフリカ佛軍總司令官  
に任命された旨發表した（五九二四）

六〇一一 シリア政府諸都市に夜間通行禁止 シリア政府はハマ  
スカス、アレツボ、ハマ、ホムス、トリボリの諸都市に夜間通行  
行禁止令を施行した（五八九九）

六〇一二 西駐アルジェール代表任命 スペイン政府はサンタロ

ニッツをアルジェール駐劄スペイン政府代表に任命した

(五五六五)

(108)

六〇一三 米銀塊を英に供與 米租貸局次長ステツチニアスは米政府は租貸法に基き英に三百七萬五千オンスの銀塊を供與した旨發表した

(五三九三)

六〇一四 米石油貯藏會社創設 米聯邦復興金融會社總裁ジエシ・J・ジョーンズ Jesse Jones は石油資源を確保するため同社の傘下に石油貯藏會社を新設することに決定した旨發表した

(五九〇二)

六〇一五 エア―下院に於る首相選舉 エア―國下院は六十七票對三十七票を以てイーモン・デ・ヴァレラ氏 Ramon de Valera を首相に再選した

(五一八一)

六〇一六 廣東、泰國間電報取扱開始 廣東、泰國間に電報取扱が開始せられた、泰國側電報取扱地域は和文は當分バンコックのみ歐文(華文を含む)は泰國全體で、料金は最低三語分、一語私報和文九十錢、歐文一圓十五錢新聞電報和文三十錢、歐文三十五錢である

(五七二一)



六〇一七 ニューギニア内地間電報取扱開始 遞信省發表に依

ればニューギニアのマノクワリと内地間に於て電報の取扱が開始せられた、料金はセレベス、ボルネオと同様和文は本文五字迄二圓八十錢、五字以内を増す毎に八十錢、歐文は三語迄三圓、以上一語を増す毎に一圓である (五二九二)

六〇一八 地方行政刷新強化に關する勅令公布 勅令地方行政協議會令、同戰時行政職權特例中改正の件及地方參事官臨時設置制が公布實施せられた (五九八五)

六〇一九 東京都制 東京都官制及東京都に關する諸法令が實施せられ、東京都設置準備事務囑託大澤茂雄氏が東京都長官に親任せられた (五九三七)

六〇二〇 地方長官異動 地方行政協議會新設に伴ふ地方長官の廣範圍に亘る異動が行はれ、河原田稼吉氏は大阪府知事に、吉野信次氏は愛知県知事に、内田信也氏は宮城県知事に、横山助成氏は廣島縣知事に、吉田茂氏は福岡縣知事に任ぜられ夫々時に親任官の待遇を賜うた (六〇〇四)

七月二日 金曜日

六〇二一 帝國陸海軍航空部隊レンドバ島攻撃 大本營發表に依

れば帝國陸海軍航空部隊はレンドバ島を攻撃、敵上陸地點附近  
一帯に大火災を生ぜしめ、敵機九を撃墜、輸送船一隻を撃破、  
舟艇多數を撃沈した、我方損害なし (六〇〇七)

六〇二二 開戦以來の反樞軸空軍の損害 英空軍省は反樞軸空軍  
が開戦以來本年六月三十日迄に、太平洋及ビルマ戦域に於る損  
害を除き、飛行機九千九百六十機を喪失した旨、英本土及北  
部歐洲に於て六月中に英機三百三十五機を喪失した旨發表した  
(五八六七)

六〇二三 パンテラリア及ランペドウサ兩島總督 北阿反樞軸軍  
司令部はパンテラリア及ランペドウサ兩島の總督を次の如く任  
命した

パンテラリア島總督 米空軍第九戰闘機隊司令官少將ストリックランド  
ランペドウサ島總督 英空軍少將ジョン・ヒフビー

(五八四六)

六〇二四 米マルチニツク島に代表派遣 米海軍省はマルチニツ

ク島總督の米代表派遣要請に就て、米第十海軍區司令官少將  
ジョン・フーヴァー John Howard Hoover をマルチニツク島に派遣しロ  
ペール總督と協議せしむる旨及會談の内容は主としてフランス  
解放委員會（五七四三）に對するマルチニツク島の地位に關す  
る事項である旨發表した（五九八）

六〇二五 米大統領陸軍豫算案に署名 □ 大統領は七百十五億磅の  
（五九一二）

一九四三 四年度陸軍豫算案に署名した □ 大統領は上  
六〇二六 米大統領商品金融會社延長法案を拒否 □ 大統領は上  
下兩院に於て可決された助成金交付禁止條項を含む商品金融會

社延長法案 The Commodity Credit Corporation Bill を拒否し、拒否  
の理由を説明した敎書を議會に送付した（五九六一）

六〇二七 米商品金融會社延長法案大統領拒否確定 米下院はロ  
大統領に依り拒否された助成金交付禁止條項を含む商品金融會  
社延長法案を接受、即日同法案を票決に附したる結果再可決  
成二百二十八票、反對百五十四票で大統領の拒否權に對する否  
決投票は憲法に規定された出席議員の三分の二を割ること二十  
六票を示し、大統領の拒否權が發動して同法案は自動的に否決

せられた

六〇二八 米六月中の造船高 米海軍委員會は六月中の造船高に比  
は百六十八隻百六十七万六千五百重量噸で五月中の造船高に比  
し七隻十万五千五百噸の減少を示した旨發表した  
(一五八七七)

六〇二九 米一九四二一三年度國庫支出狀況 米財務省は六月三  
十日を以て終る一九四二一三年度の財政狀況に就て、一九四二  
一三年度に於る國庫支出總額は七八一七八八五千弗に達し内  
戰費は七三、一〇八、八六二千弗で、六月三十日現在の國庫負債額  
は一四〇、七九六、〇三三、千弗である旨發表した(一五三五六)  
六〇三〇 佛領西亞總督 ド・ゴール派に屬する前佛領カメル  
ン總督クールナリが佛領西アフリカ總督に任命せられた  
(一五九七九)

六〇三一 獨外務省白書「ロースヴェルトの戰爭政策」發表  
獨外務省は「ロースヴェルトの戰爭政策」と題する獨政府當局  
の蒐集した秘密外交文書を基礎とする白書を發表して今次大戰  
の責任はロースヴェルトの反樞軸國家政策にある所以を暴露し  
た

六〇三二

伊民間徵用範圍擴大

伊政府は民間徵用範圍を擴大し

一九二二年乃至一九二五年出生の男女を一般勞務に徵用することとなり、右に該當する男女は來る十五日から三十一日迄に登録すべき旨布告した

(五九〇八)

六〇三三

毛澤東延安歸着

六月中旬陳紹禹以下黨員數名を帶同

モスクワを訪問した中國共產黨首領毛澤東は空路延安に歸着した

(四八二四)

六〇三四

華北政務委員會委員長死去

華北政務委員會委員長朱

深氏は北京の自邸に於て死去した

(四五六一)

七月三日 土曜日

六〇三五 帝國潜水艦六月中の戦果 帝國潜水艦が六月中敵船十  
一隻八万五千噸を撃沈した旨大本營から發表せられた (五六五一)

六〇三六 米婦人補助部隊を陸軍に編入 口大統領は米婦人補助  
部隊を陸軍に編入する趣旨の法案に署名した、右に依り婦人隊

員は陸軍兵士と同様の資格が與へられ、補助なる語は削除され  
婦人陸軍部隊と稱されることとなつた (四四八八)

六〇三七 米代表マルチニツク島着 米第十海軍區司令官フーヴァ  
ーはマルチニツク島のフォル・ド・フランス Fort de France に  
到着した (六〇二四)

六〇三八 米海軍哨戒に飛行船を利用 米海軍は太平洋、大西洋  
及メキシコ灣に於て商船護送並に對潜水艦哨戒の目的を以て十

二の軟式飛行船隊を使用してゐるが其の效果は極めて優秀であ  
る旨米海軍省から發表された (五九四七)

六〇三九 チロイ將軍訪米 アンリイ・チロイ將軍は訪米の途北  
阿のアルシエールから空路ナタールに到着した(六〇一〇)

六〇四〇 米商品金融會社延長新法案

口大統領に依り拒否され

た食糧助成金禁止條項を含む商品金融會社延長法案の代案として下院金融通貨委員會から提出された商品金融會社延長法案が下院に於て可決上院に回付された、新法案は會社の融資額が三億五千万弗増額されてゐるが、會社の存續期限は一九四四年一月一日迄で六箇月の延長を認めてゐるに過ぎない(六〇二七)

六〇四一 米炭坑罷業に因る損害

燃料統制官イツキーズは、炭

坑罷業の結果本年上半期の石炭産出高は昨年同期に比し百七十二万八千噸を減少するに至つた旨言明した (五九七七)

六〇四二 米労働代表南米訪問

米労働總同盟會長ダリオン及産

業別組織會議々長マレーは、兩組合は其の代表を労働運動調査のため中南米諸國に派遣することとなつた旨共同發表した

(五七三五)

六〇四三 在智伊人引揚

チリ駐在伊外交官竝に在智伊人七十

名は六日サンチャゴ出發ブエノスアイレスに赴き同地からスペイン船でリスボンに向ふこととなつた旨發表された

(四八三八)

六〇四四 勃白通商協定調印  
ブルガリア政府の發表に依れば同

六〇四五 國とベルギーとの間に通商協定が調印せられた

六〇四五 東條首相バンコックに着  
東條首相はサイゴン經由バン  
コックに到着した (五九九九)

七月四日 日曜日

六〇四六 帝國陸海軍航空部隊レンドバ港攻撃  
大本營發表に依

れば帝國陸海軍航空部隊はレンドバ港の敵輸送船團及揚陸場を  
攻撃し左記の戦果を収めた、我方の損害自爆九機

撃沈 輸送船五隻 舟艇十數隻  
集積所爆碎炎上 撃墜飛行機二十三機以上

米海軍省發表に依れば驅逐艦ストロング二一〇〇噸が夜魚雷に  
(六〇二一)

依り撃沈された  
六〇四七 英のクレタ島上陸作戦  
英中東軍司令部發表に依れば、

英軍小部隊が夜突如地中海のクレタ島に奇襲上陸を行ったが樞  
軸軍の反撃を蒙り(五五一五)一小時間にして同島を撤退した  
(四四〇七)



六〇四八

亡命波政權首相死去

亡命ボーランド政權首相シゴル

スキーは同政權參謀總長クリメツキ以下同政權幹部を帶同  
米國製重爆撃機リベレーターに塔乗し夜ジブラルターを出發し  
て間もなく飛行機事故に因り英人操縦士一名を除き全員墜死し  
た

(五八四〇)

六〇四九

日泰共同聲明發表

東條首相とピブン泰國首相は本日

バンコックに於て會見し戦争の全局面及日泰關係の全般を檢討  
し大東亞結集及協同戦争完遂の方策に就て意見を交換し大東亞  
必勝の態勢が確立せられてゐることを再確認した、更に右會談  
に於て東條首相は大日本帝國は常に泰國の主權と獨立を尊重し  
其の興隆を祈念する旨を最も明白に再言したる後兩首相間に於  
て泰國多年の希望たる新疆域及日泰協力に關する重要な協議  
を極めて友好裡に行ひたる結果、北部マライに於るペルリス、  
ケダー、ケランタン、トレンガヌ四州及シヤン聯邦中ケントン、  
モンバン二州を泰國の領土とすべきことに就て完全なる意見の一致を見た旨の  
日泰共同聲明が發表せられた

東條首相は午前暎上大使より現地事情を聽取し次でピブン泰

首相を官邸に訪問、正午大使官邸午餐會に出席午後英靈奉安所  
參拜、攝政官邸の記帳を終へ、次でピブソ首相の招宴に臨んだ

(六〇四五)

六〇五〇 スバス・チャンドラ・ボース印度獨立聯盟會長就任  
スバス・チャンドラ・ボースは二日東京より昭南に到着、本日  
同市に開催されたインド獨立聯盟代表者大會に於てラス・ビハ  
リー・ボースに代りインド獨立聯盟會長に就任、同大會席上に  
於て演説を行ひ其の中に於て、彼等の一切の總力を效果的に動  
員するため彼は自由印度臨時政府を組織する方針である旨及イ  
ンドの革命を指導して有終の美をおさめる爲臨時政府はインド  
の内外に於る同胞を武力闘争のために準備するであらう旨述べ

(五九〇四)

六〇五一 宋美齡重慶歸着  
宋美齡は午後印度經由重慶に歸着し

(五九九〇)

六〇五二 華北政務委員會委員長更迭  
華北政務委員會高等顧問諮詢會議議長王克敏氏が後任華北政務  
委員會委員長に任命せられた

(六〇三四)

六〇五三 五月末現在昭和十七年度國庫現計 五月末現在の昭和  
 十七年度國庫現計が左記の如く大藏省から發表せられた(單位)

|      |           |                   |
|------|-----------|-------------------|
| 千圓   |           |                   |
| 歲入總計 | 八、五三、一五五  | 前年同期比較増 一、〇九八、五一九 |
| 歲出總計 | 八、二三、九九五七 | 前年同期比較増 一、三三、六一四  |
|      |           | (五四〇一)            |

七月五日 月曜日

六〇五四 クラ灣方面に於る帝國陸海軍の戦果 大本營發表に依

れば、敵は六月三十日レンドバ島方面の一部揚陸に引續き隣接するニュージョージア New Georgia 島の數箇所の上陸し來り目下同島各地に於て戰鬪續行中である。同島北西部クラ Kula 灣方面に於る本日の戦況は次の通りである。

(一) 黎明同地帝國陸海軍守備隊並に帝國水雷戦隊は艦種不詳の敵艦三隻を撃沈した

(二) 晝間帝國海軍航空部隊はクラ灣上空に於て敵機十機を撃墜した

(三) 夜間帝國驅逐艦數隻は巡洋艦、驅逐艦十數隻より成る敵部隊を攻撃し巡洋艦一隻を轟沈、同一隻を撃破炎上せしめ之を潰走せしめた (六〇四六)

六〇五五 ハリコフ北方に於て獨軍攻撃を開始 獨總統大本營發表に依れば、獨軍歩兵部隊はハリコフ北方のキエールゴロド地區で攻撃を開始し赤軍と地上戦及空中戦を展開し、目下戦線は同地區からクルスク Kurstk 北方迄擴大してゐる (五一五六)

六〇五六 米の滑空機に依る物資輸送 英空軍省は軍需品を積載した滑空機がダグラスC四〇型飛行機に曳航せられソ聯へ向ふ

途次ロンドンに到着した旨發表した (五九〇一)

六〇五七 米の女子動員數 米労働長官パーキンスは、現在既に一千六百萬の女子が家庭を離れて重要な戦争努力に従事してゐる旨發表した (五八五九)

六〇五八 米肉類最高價格法案 米ミズリー州選出共和黨議員ウォルター・フレージャー Walter Frazer は肉類最高價格法案を下院に提出した、同法案は肉類を農家値段、屠殺場値段、卸賣値段の三種に分つて最高價格を公定せんとするものである (五五六八)

六〇五九 米黄色人種移民禁止法撤廢法案 米ワシントン州選出下院議員ワイルン・マグナツソン Warren G. Magnuson は議會に黄色人種移民禁止法撤廢法案を提出した (五六〇九)

六〇六〇 東條首相記者 東條首相一行は午後附南に到着、直に現地最高司令部に赴き最高指揮官と會談後各部隊指揮官から夫々狀況報告を聴取、次で現地部隊將兵に對し訓示を行ひ、現

地土侯の伺候を受けた

六〇六一 特別操縦見習士官制

勅令陸軍航空關係豫備役兵科將

校補充及服役臨時特例及之に伴ふ陸軍省令、陸軍省告示が公布  
實施せられた、右に依り専門學校程度以上の學校を卒業したる  
ものにして採用された者は入隊後直に特別操縦見習士官として  
兵科將校となるに必要な教育を受け一箇年半（又は一箇年）に  
して少尉に任ぜられる

（六〇四九）

七月五日 月曜日

補遺 六〇六二 我軍ニューギニア島上陸米濠軍を攻撃 大本營發表に依ればニューギニア島東南部サラモア Salamaua 附近の我守備隊は六月三十日以来ナツソウ Nassau 灣に上陸せる米軍及ワウ Wau 方面より前進せる濠洲軍に對し反撃作戰實施中にして特にボブダビ Bobdubi 附近に於て本日敵の背後を急襲し敵を潰亂せしめた

我航空隊も亦七月一日、三日、五日ナツソウ灣の敵を攻撃し敵舟艇群、揚陸場等に對し大損害を與へた (六〇五四)

補遺 六〇六三 印度國民軍 インド獨立聯盟に依り編成せられたインド國民軍の觀兵式が午前十時半昭南特別市廳前廣場に於て舉行せられ、同聯盟會長チャンドラ・ボースは國民軍に對し、印度國民軍將兵は誠實、義務、犠牲の三箇條を信條として彼等自ら血の犠牲を拂ひ武力を以て自由インドを獲得せねばならぬ旨の印度國民軍に與ふる書を發表した (六〇五〇)

補遺 六〇六四 西南太平洋米軍指揮官 リスボン十日發同盟電に依れば西南太平洋反

樞軸軍司令部は西南太平洋水域に於る米軍指揮官を左記の如く發表した

海軍指揮官 中將アーサー・カーベントー 米海軍第七艦隊司令官

水陸兩用艦隊司令官 少將ダニエル・ダービー

護衛艦隊司令官 大佐カーター

上陸用舟艇司令官 中佐マツクギー

陸軍總指揮官 中將ウォルター・クルーガー 米陸軍第六軍司令官

(五七五七)

× × × × × ×

七月六日 火曜日

六〇六五 在支皇軍一箇年の綜合戦果 昨年七月以降一箇年間に

於る支那方面我軍の綜合戦果が次の如く大本營から發表せられた、我方の損害は戦死八千二百八十一名、飛行機四十四である

遺棄死體約四五七八〇〇 俘虜約一四九〇〇〇 歸順約九六〇〇〇

飛行機 二七〇